

## 本日の国内株式市場の下落について

アイエヌジー投信株式会社

本日の国内株式市場は、東証株価指数(TOPIX)が73.79ポイント安(▲5.70%)の1219.95、日経平均株価は752円89銭安(▲5.65%)の12,573円05銭と大きく下落いたしました。

本日の株価下落について、当社では以下のように考えております。

### 1. 株価下落の要因

- ①サブプライムローン(信用力の低い個人向け住宅ローン)を裏づけとする資産担保証券の価格下落などにより、欧米の金融機関やファンドでの損失の計上が続いていることを受け、投資家の不安感が高まり、欧米の株式相場が下げ止まらないこと。
- ②米景気減速が新興国経済に波及するとの懸念が広がったこと。
- ③今週に入り、これまで堅調であった日本を除くアジア株式市場においても株価が急落し、市場心理を冷やしたこと。
- ④為替市場で円高が進行していること。

### 2. 今後の見通し

サブプライムローン問題を発端とした金融市場の混乱が落ち着くまでには、まだしばらく時間が必要になると思われます。市場の混乱に対して各国の中央銀行が資金供給を増やしていることや、シティグループ等の米国の金融機関が続々と大型資本増資を発表しており、信用収縮による金融不安の連鎖を未然に防ぐ努力を続けていることから、徐々に流動性の回復が図られ、市場は安定化の兆しを見せてくると思われます。

年初来からの株価の下落により、日本を含めて先進国の主要株式市場には株価の割高感はなく、今年後半か来年には景気が持ち直すことが期待できるようになれば、各国の株価は景気に先行して回復する可能性があると考えます。また、金融市場(特に米国)の混乱が収まれば、円高にも次第に歯止めがかかると思われます。

以上